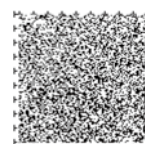




もくじ
目次

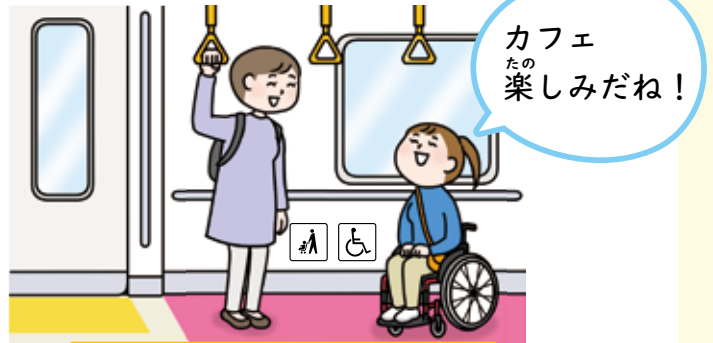
- | | | | | | |
|---|---|----|---|--|----|
| 1 | まちの中 ^{なか} にあるバリア | 2 | 4 | もっとバリアフリーを
すすめるために | 22 |
| 2 | 「心のバリアフリー」のために
できること | 6 | 5 | みんなが暮らしやすい
まちをつくろう | 26 |
| 3 | いろいろな人 ^{ひと} の声 ^{こえ} を聞いてみよう | 10 | 6 | せんせい ^{せんせい} や保護者 ^{ほごしや} の方 ^{かた} へ | 27 |



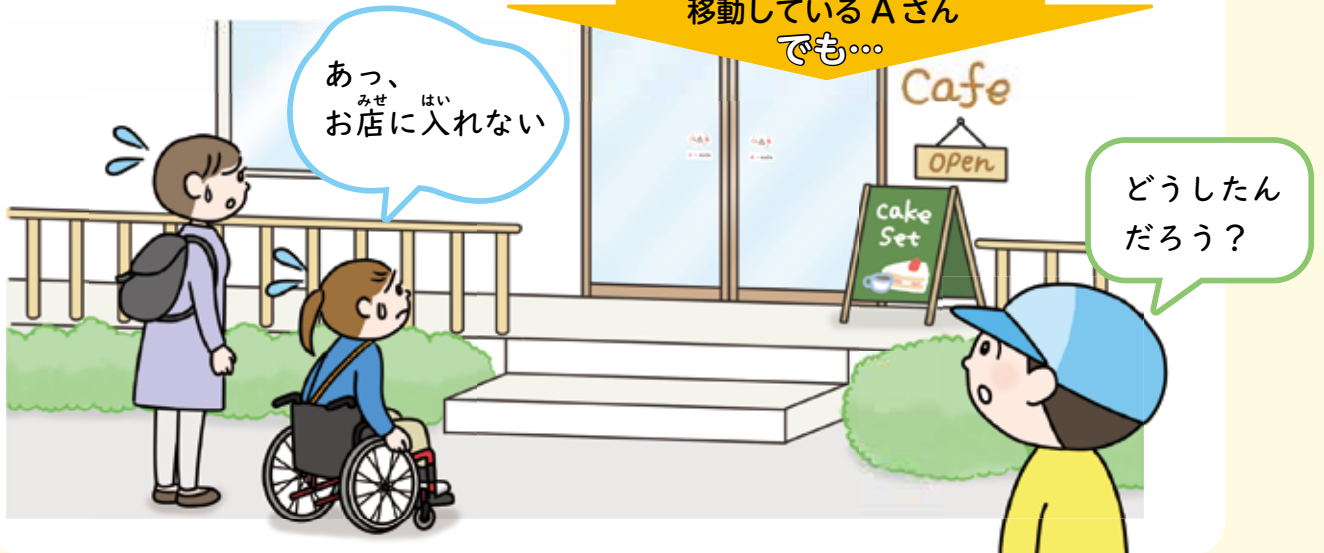
1

まちの中にあるバリア

イラストを見て、ワークをやってみましょう！



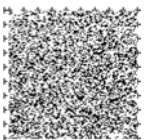
いつもはくるま車いすでスイスイ移動しているAさんでも...



ワーク ① Aさんは何を思っているのでしょうか？



② Aさんに対して、自分の思ったことを書いてみましょう。





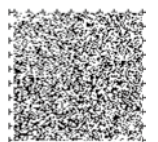
*白杖は13ページ、点字ブロックは22ページで説明しています。

ワーク ① Bさんはなぜ困っているのでしょうか？

Bさん



② Bさんに対して、自分の思ったことを書いてみましょう。



1 まちの中にあるバリア

みみ
耳が
き
聞こえない

Cさんの場合

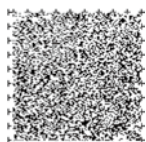


ワーク ① Cさんはなぜ困っているのでしょうか?



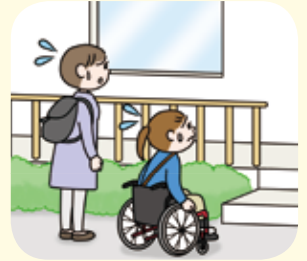
Cさん

② Cさんに対して、自分の思ったことを書いてみましょう。



「心のバリアフリー」とはなんだろう？

まち（社会）の中には、階段や電車・バスの出入り口の段差のような「目に見えるバリア（障壁）」があります。そのため、2ページのようにお店の階段を上ることや、3ページのように横断歩道の信号機が青になったら渡るなど、多くの人には問題なくできることが、同じやり方でできない人もいます。



自分と同じやり方でできない人を見て、「車いすだからできないんだ」や、「目が見えないから横断歩道を渡るのが大変なんだ」と思ったことはありませんか？



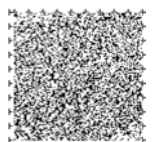
それとも、「車いすでも上がれるようにすればいいのに」や、「目が見えなくても青だとわかる信号機があればいいのに」というように思いましたか？

相手のことをよく知らずに「できないんだ」「大変そうだ」「かわいそうだ」と勝手に決めつけてしまうのは、無知や偏見、差別という**心のバリア**です。

まち（社会）の中には、階段のような「目に見えるバリア」だけでなく、**心のバリア**のように思いこみから出てくる「目が見えないバリア」があることを知りましょう。

人の心の中に「目が見えないバリア」があることや、みんなそれぞれに特徴があることを理解し、バリアを取りはらうために行動することを**心のバリアフリー**といいます。

では、**心のバリアフリー**を目指すために、あなたにできることは何でしょうか？



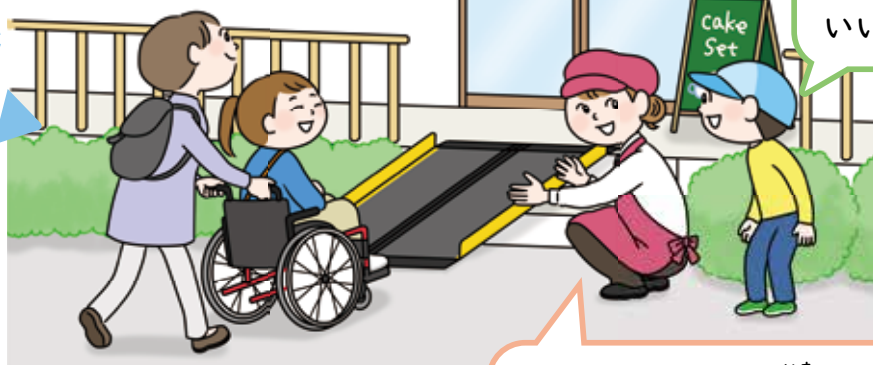
2

「心のバリアフリー」の ためにできること

2 ページの車いすを使っているAさんは入り口に階段しかなくて中に入れません。

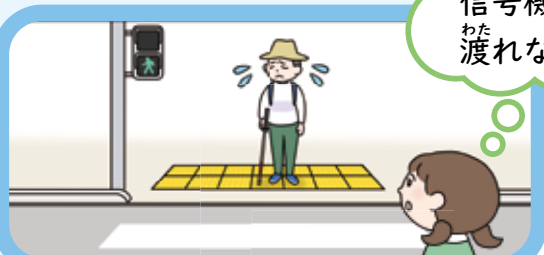


入り口に階段しかないから
入れないんだ…。



入り口を直せば
いいんじゃない？

また、3 ページの目が見えないBさんは
信号機の色が見えていないので
横断歩道を渡れません。



信号機の色が見えないから
渡れないんだ！

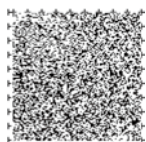
音が出る信号機なら、
見えなくてもわかるよ。



あお
青になり
ましたよ

音が出ないときは、
まわりの人が信号機の色を
伝える方法があるね。

声をかけてくれて
ありがとう



「障がいの社会モデル」とはなんだろう？

6 ページで車いすの人が階段しかないお店に来たとき、お店の人は、車いすの人にどうしたらよいか確認して、スロープを用意しました。そのあと、お店の人は「車いすの人がお店に入れないのはおかしい。車いすの人が入れないお店の方が問題だ。」と思い、入り口を階段とスロープの両方に直したそうです。

あなたは「車いすの人が入れない入り口に問題がある」というように“本人ではなく「まわりにバリアがある」ことに問題がある”と気づきましたか？

つまり、

障がい（バリア／障壁）は本人ではなく、まわりの環境の中にある

と考えられます。このような考え方を障がいの社会モデルといいます。

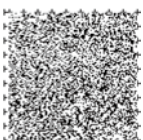
誰もが暮らしやすいまち（社会）にするためには、まち（社会）のバリアをみんなで取り除くことが大切です。

階段のような「目に見えるバリア」を解消するには、時間やお金がかかりますが、私たち一人ひとりの声かけ、サポートで解決できる部分もたくさんあります。

例えば、7 ページに出てきた耳が聞こえないCさんに対しては、ジェスチャーや筆談で伝えることができます。



きゅうびょうにんたいおう
急病人対応で
とまって
います





じゃあ、
わたし
私たちにできることって、
どんなことかな？



こえ
声かけから
はじめてみようかな

こえ 声かけのポイント

その1

あいて かお み いどう
相手の顔が見えるように移動します。
(うしろから こえ
後ろから声をかけるとビックリしてしまいます。)

その2

あいて かお み
相手の顔を見て、
なに て つだ
「何かお手伝いできることはありますか？」と聞きましょう。



め み ひと ば あい うで かた かる あいず
目の見えない人の場合は、腕や肩などを軽くさわり、合図します。

みみ き ひと ば あい はず くち かたち み
耳の聞こえない人の場合はマスクを外し、口の形を見せます。

しゃ かい なか ひと
まち (社会) の中にはさまざまな人がいて、
いろいろなコミュニケーション方法があります。

ことわ もし、断られてしまったら…

もしかしたら、「だいじょうぶです」と断られてしまうかもしれません。
そのときは、「いま こま
今は困っていなかったんだ！よかった〜」と安心して
ください。

そして、また困っている人を見かけたら、こえ
声をかけてみてください。

こま
「困っているかもしれない」と気づけることが大切です。

コラム

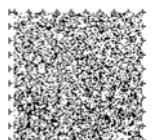
ほん にん こえ
本人に声をかけましょう

あなたがこえ
声をかけたい人のとなりにサポートする人(家族、
しやわつうやくしゃ かいじょしゃ ば あい
手話通訳者、介助者など)がいる場合があります。

はなし
話をするときは、サポートする人ではなく、こえ
声をかけたい人
に向かって話しましょう。

ちよくせつ
直接その人と話せない場合でも、サポートする人といっしょ
にその人の思いを確認します。

ほん にん
本人ではなく、サポートする人と話すと、本人は無視されて
いるように感じて嫌な気分になります。



3

いろいろな人の声を聞いてみよう

～困っていること・私たち、まわりができること～

3-1 肢体不自由者（車いす・杖を使っている人など）

困っていること



車いすを使っている人

- 坂道や、でこぼこした道を通るのが大変です。下りを怖いと思う人もいます。
- 高いところにある物を取ったり、床に落ちた物を拾ったりすることがむずかしいです。
- 階段やエスカレーターが使えないので、エレベーターを使います。
- トイレを使うときは、広いスペースが必要です。

困っていること



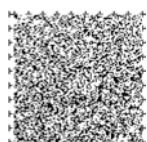
杖を使っている人、手足の一部が麻痺している人

- 物を持ったり、文字を書いたりすることがむずかしい人もいます。
- バランスを崩しやすい人もいるため、電車やバスで立っていることがむずかしいです。



私たち、まわりができること

- エレベーターしか使えない人がスムーズに使えるように、階段やエスカレーターを使えるときはそちらを使いましょう。
- 電車やバスの優先席は、あなた自身が席をゆずれるときは席をゆずりましょう。
- 駐車場の優先スペースは車いす使用者などのために空けておきましょう。（くわしくは23ページ）



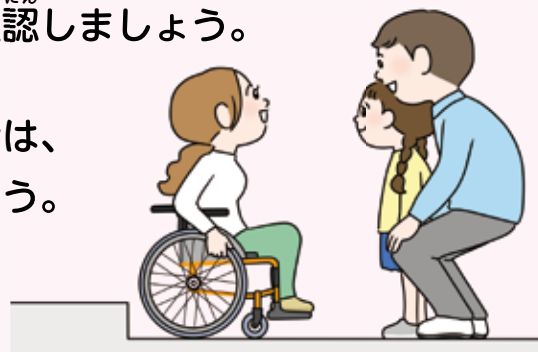
くるま つか ひと たい おう 車いすを使っている人への対応

その1

その人の車いすに合わせた対応が必要なので、
どのようにお手伝いをすればよいのか、
まず車いすを使っている人に確認しましょう。

その2

一人でお手伝いができない場合は、
まわりの大人に声をかけましょう。



くるま はな ● 車いすから離れるときは

すこ くるま はな かなら
少しでも車いすから離れるときは、必ずブレーキをかけます。
ほんのすこ じめん なな うご だ きけん
ほんの少しでも地面が斜めになっていると動き出してしまう、危険だからです。

さかみち ● 坂道のときは

のぼ も て にぎ ちから い お
《上り》持ち手をしっかり握って、力を入れながらゆっくり押します。

くだ も て にぎ て はな ちゅう い
《下り》持ち手をしっかり握って、手が離れないように注意します。
きゆう くだ ざか ば あい うし お ほうほう
急な下り坂の場合は、後ろ向きに下りる方法もあります。

コラム

くるま しゅるい しょうかい 車いすの種類の紹介

くるま
車いすにはいろい
ろな種類があります。
しゅどうくるま でん
「手動車いす」や「電
動車いす」のほかに、
こ ようくるま
「子ども用車いす*」
などがあります。



しゅどうくるま
手動車いす

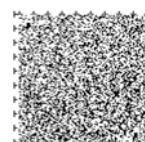


でんどうくるま
電動車いす



こ ようくるま
子ども用車いす

びょうき しょう りゆう いどう こ りよう
*病気や障がいがある理由で移動できない子どもが利用するものです。ベビー
カーと同じような形でも、その人に合わせてつくられているので簡単に折
りたたむことができません。



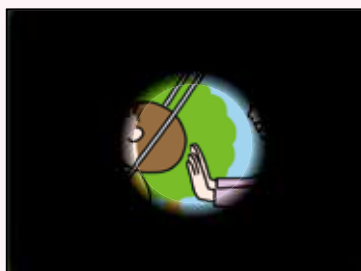
3-2 視覚障がい者

〈見え方について〉

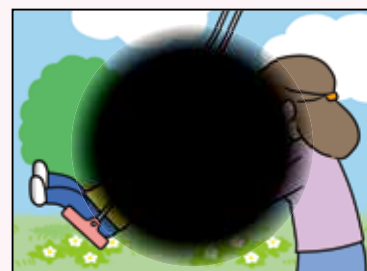
- 目の不自由な人の見え方は、人によってちがいます。
- 全く見えない人、見えにくい人がいます。
- 見えにくい人の中にも、ぼやけて見える、見える範囲がせまい、中心が見えないなどさまざまです。
- 目の中心部分が見えていれば、なんとか読み書きができ、目の中心部分以外が見えていれば、なんとか歩くことができるなど、見え方によってできることがいろいろあります。



ぼやけて見える



見える範囲がせまい



中心が見えない

困っていること

白杖を使って歩く人

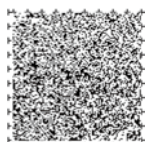
- 白杖を使って歩いているため、急に白杖をさわられると、とても怖いです。
- 点字ブロックを手がかりに歩いているため、点字ブロックの上に自転車や荷物などが置いてあると先に進めません。
(点字ブロックについては22ページ)



困っていること

白杖を使っていない人

- まわりの人に目が不自由なことに気づいてもらえません。
- 盲導犬の役割を知らない人がいます。
(盲導犬については25ページ)





わたし

私たち、まわりができること

- 信号機が青になったら、「青になりましたよ。いっしょに渡りますか？」と声をかけましょう。
- 点字ブロックの上に立ち止まったり、物を置かないようにしましょう。

あお
青になり
ましたよ



※盲導犬は横断歩道を渡ってよいかどうかを判断できません。

はく じょう

白 杖

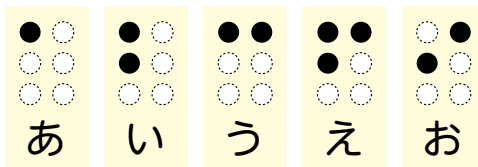
白杖は足元の状況を確認したり、まわりの人に見えにくいことを伝えるために使うものです。

てん じ

点 字

点字とは、目の不自由な人が指で読む文字のことです。文字や数字などをポツポツと盛り上がった、横2つ×縦3つの6つの点で表します。

ただ、目の不自由な人の中には、点字が読めない人もいますので、点字が必要かどうか確認しましょう。



いっしょに歩くときは…



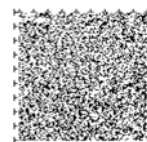
その1

どのようにいっしょに歩いたらよいか、目の不自由な人に確認します。

その2

歩くときは、段差や曲がる方向などを伝えます。

「あっち」や「こっち」などの言葉は使わず、「左」や「右」など具体的に方向を伝えましょう。



3-3 聴覚障がい者

〈聞こえ方について〉

- 耳の不自由な人の聞こえ方は人によってちがいます。
- 全く聞こえない人、聞こえにくい人などがいます。
また、発音の区別がつかない人やつきにくい人もいます。
- 話すことはできるけど、聞こえない人もいます。



困っていること

- ぱっと見では耳が不自由なことがわからないため、まわりの人に気づいてもらえません。
- 車や自転車の音、電車やバスの案内放送、緊急放送や非常ベルの音が聞こえなかったり、気づかないことがあります。

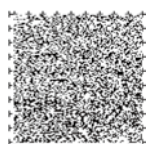


- 口の形を見ながら、話していることを確認しています。
マスクをしていると口の形がわかりません。
- 補聴器などを着けていても、内容が伝わっていない（聞こえていない）人もいます。



私たち、まわりができること

- うしろから声をかけて振り向いてもらえないときは、「もしかしたら耳が聞こえないのかも」と思いましょう。
- 口の形が見えるように話しましょう。また、ジェスチャーもいっしょにやると、伝わりやすいです。



お店に買い物に行ったとき、最後に手話で「ありがとう」と伝えてもらえて嬉しかったです。

目で見てわかる コミュニケーション

目で見てわかるコミュニケーションの方法はいろいろあります。話す相手の顔を見て、口をしっかりと開けて話しながら、表情やジェスチャーで伝えます。“伝えたい”という思いが大切です。

手話

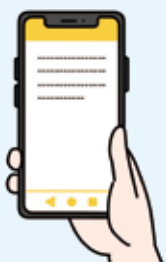
ありがとう

手話は、耳の不自由な人が使っている言葉です。手の指、体、目の動き、顔の表情などを使って話すものです。



筆談 (紙／スマートフォン・タブレット)

紙や手のひらに文字などを書いたり、端末に文字を打ったり、声を文字に変えて画面を見せたりする方法などがあります。



ジェスチャー

手や体の動き、顔の表情で伝えます。



口話

口の動きや形がわかるように、口を大きく開けて話します。



この他にも、空書（空中に文字を書いて伝える方法）や、指文字（50音を指の形で表す方法）などがあります。

コラム

補聴器など



耳あな式



耳かけ式

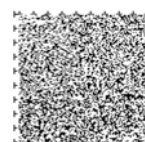


人工内耳

耳の不自由な人の聞こえを助けるものです。補聴器には、耳あな式や耳かけ式などがあり、ワイヤレスイヤホンと見た目が似ていますが、使い方がちがいます。他には人工内耳というものもあります。耳の不自由な人にとって、とても大切なものなので、無理にさわらないようにしましょう。



10～15ページを読んで、気がついたことや、感じたことを書いてみましょう。



3-4 知的障がい者／発達障がい者

＜知的障がいとは？＞

- 自分の気持ちを伝えることが苦手な人が多いです。
- 早口で話しかけられたり、一度にたくさんのことを言われたりすると、相手の言っていることがわからなくなる場合があります。
- いつもとちがう状況になると不安になったり、トラブルが起きたときに、その場に合わせた行動をすることがむずかしい人もいます。
- 順番に並ぶなど、ルールを理解することが苦手な人もいます。



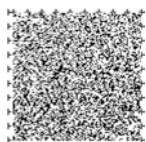
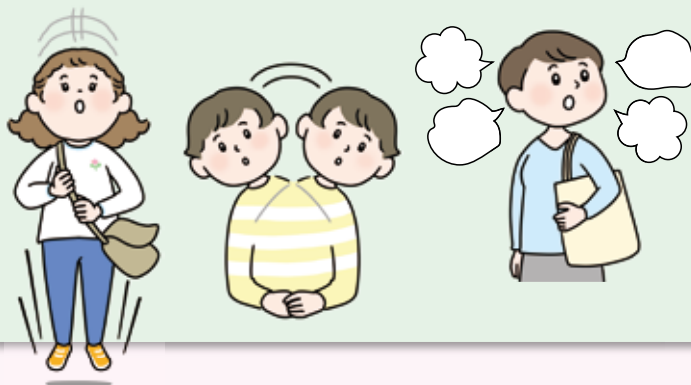
＜発達障がいとは？＞

- 急な出来事や予定の変更に対応することが苦手な人もいます。
- 光や音、肌ざわりなどの刺激を強く感じる人もいます。
- 気が散って、集中できず、じっとしていられない人もいます。

コラム

変わって見える行動にも本人なりの理由があります

ジャンプをしたり、体を前後にゆらしたりするなど、同じ行動をくり返すことがありますが、決して、まわりを困らせようとしているわけではありません。





わたし

私たち、まわりができること

- 短い文章で、「ゆっくり」「ていねいに」「わかりやすく」説明しましょう。
- 急がせず、落ち着いて言葉が出てくるのを待ちましょう。
- 質問する場合は、相手が「はい」「いいえ」で答えることができるように工夫しましょう。

知りたいのは
トイレの場所
ですか？

はい！



コラム

不安やストレスを減らすための工夫

身のまわりの音や光が、日常生活を送る上で影響が出てくるほど大きく聞こえたり、まぶしく感じたりすることで、不安やストレスを感じる人がいます。それらを減らすための工夫として、以下のようなものがあります。

イヤーマフ

雑音などまわりの音を聞こえにくくするものです。耳全体をおおう形をしていますが、音楽などを聞くヘッドホンとは使い方がちがいます。

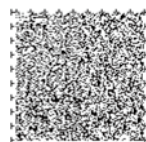


カームダウン・クールダウン室／スペース

外の音や光などをなるべくさえぎるための部屋やスペースで、気持ちを落ち着かせたい人が利用します。



*発達障がいにはいくつかの診断名がありますが、いくつかのタイプが重なっていることが多く、その重なり方や症状などは人によってちがいます。そのため「診断名＝その人の特徴」とは言い切れません。



音声コード Uni-Voice

3-5 妊婦、子育て中の親

困っていること

- おなかに赤ちゃんがいても、おなかが大きくないとまわりの人に気づいてもらえません。
- ベビーカーを押していると、階段やエスカレーターで上り下りできません。
- 電車やバスの中で、急に赤ちゃんが泣きだすと、あわてたり、申しわけない気持ちになったりします。
- スピードを出した自転車などが、小さな子どもの横を追いこしていくことが怖いです。



私たち、まわりができること

- 電車やバスの中で、マタニティマークをつけている人や、赤ちゃんを抱いている人がいて、あなた自身が席をゆずれるときは席をゆずりましょう。
- 赤ちゃんが泣いていても、やさしい気持ちで見守りましょう。



だいじょうぶよ～

コラム

マタニティマーク

まわりの人に、おなかに赤ちゃんがいることを知らせるために、カバンなどにつけるマークです。

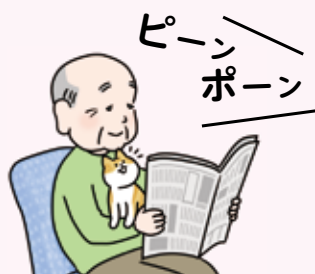


16～18ページを読んで、気がついたことや、感じたことを書いてみましょう。



3-6 そのほか、まちにはさまざまな人がいます

(1) 高齢者



困っていること

- 耳が聞こえにくくなるため、話している内容が聞き取りにくくなったり、インターホンが鳴っていることに気づきにくくなる人もいます。
- 新聞や説明書などの小さな文字が読みにくい人も多くなります。
- 動きたいという気持ちがあっても、若いころのように体を動かすのがむずかしくなります。
- 注意力に欠け、だまされやすくなる人もいます。

(2) 内部障がい者・難病の人

内部障がいとは？

心臓・腎臓や呼吸器、膀胱や直腸

など、体の内部が働きにくくなったり、なくなっている障がいです。

難病とは？

原因がわからないため、治す方法が決まっていない、あるいは治りにくい病気です。

困っていること

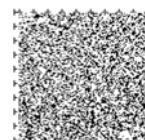
- 外見からは「障がいがある」ことがわかりにくく、電車やバスの優先席に座っていると、まわりの人から不審な目で見られることがあります。
- 体力がない人や、体調が悪くなりやすい人もいます。
- 呼吸器に障がいがある場合は、たばこのけむりなどをとても苦しいと感じます。
- 風邪などがうつると悪化しやすくなる人もいます。

コラム

ハート・プラスマーク



内部障がいは見た目ではわかりにくいため、まわりの人に、理解と協力を広げるためのマークです。



(3) 精神障がい者

知ってほしいこと

- 見た目ではわからないため、まわりの人に気づいてもらえません。
- 薬の副作用で早く起きられない、疲れやすいという人もいます。
- 人との関わりに不安を感じたり、緊張したりする人が多く、社会生活や日常生活を送る上でさまざまな困りごとがあります。
- まわりの人が本人やその家族に対して理解をもって接することで、こうした困りごとを少なくすることもできます。
- 適切な治療や薬、リハビリテーションやまわりの人の支えにより、地域で安定した生活ができるようになっていくことを知ってください。



いろいろ考えてわからなくなってしまうこともあります。



人が話している姿を見て、自分が笑われているような気がする人もいます。



人混みが、とても怖いと感じる人もいます。

コラム

ヘルプマーク／ヘルプカード

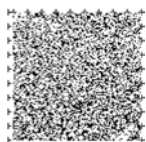
ヘルプマークは、内部障がいや難病の人など、助けや配慮を必要としていることが見た目からはわからない人たちが、助けてもらいやすくなるように、まわりの人たちに配慮を必要としていることを知らせるマークです。



ヘルプマーク



ヘルプカードは、障がい者が緊急時や日常生活の中でまわりの人へ助けを求めるときに見せるものです。どういう手助けが必要か書かれています。



(4) 高次脳機能障がいの人

◆ 高次脳機能障がいとは？

病気や交通事故により、脳が傷ついたことが原因で、新しいことを覚えるのが苦手、集中力が続かない、うまく家事や仕事を進められないなどの特徴があります。

困っていること

- 見た目では障がいがあることがわかりにくいため、まわりの人に気づいてもらえないことがあります。
- 説明を聞くとときに、紙（プリント）やパソコン・スマートフォンの画面など、目で見てわかるものがないと、理解しにくいと感じる人が多いです。

(5) 外国の人

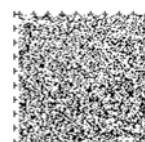
困っていること

- 日本語がむずかしく、災害時などの情報がわかりにくい人もいます。
- 日本と自分の国の考え方や習慣のちがいにとまどうことが多いです。
- みんなが英語をわかるわけではありません。英語がわからない外国の人たちもたくさんいます。

(6) 性の多様性

性には、「こころの性（自分が実感している性別）」「からだの性（生まれたときの体の性別）」「好きになる性（好きになる相手の性別）」「表現する性（言葉づかいや服装など自分が表現したい性別）」などがあります。性のあり方はさまざまです。

そのため、見た目や声で性のあり方を決めつけたり、性別を限定したりする表現には気をつけましょう。



4

もっとバリアフリーを すすめるために

まち（社会）の中では、建物や道路、公園、駅などのバリアフリーが進んでいます。

例えば、段差解消のためのエレベーター、車いす使用者などが使えるトイレや駐車場、視覚障がい者が歩くための手がかりになる点字ブロックなどの整備です。

そのため、車いす使用者、視覚障がい者、聴覚障がい者、ベビーカーを押している人、子ども、高齢者など、さまざまな人たちがまち（社会）の中を移動して、外での買い物や食事、仕事がしやすくなってきています。

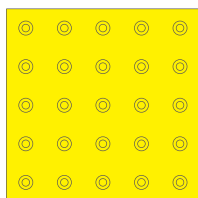


しかし、まち（社会）の中にあるバリアフリー設備について、本当に使いたいときに使えないことがあり、困っている人もいます。

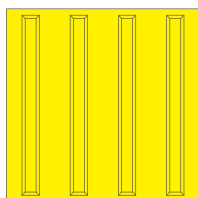
21ページまで読んで勉強した内容を元に、私たちができることはなにか考えてみましょう。

点字ブロック

正式な名前は「視覚障がい者誘導用ブロック」です。



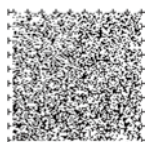
点状ブロック



線状ブロック

点字ブロックは危険なところや注意が必要なところを伝える点状ブロック（警告ブロック）と、行き先まで案内する線状ブロック（誘導ブロック）があります。

目の不自由な人が手がかりにしているため、点字ブロックの上で立ち止まったり、自転車や物を置いたりしないようにしましょう。



ほんとうに^{つか}使いたい人が^{ひと}使えるように^{つか}しましょう！

〈エレベーター〉

エレベーターしか^{つか}使えない人^{ひと}（例えば、^{くるま}車いすやベビーカーなど）がいます。

エレベーターが^こ混んでいるとき、エレベーター以外^いを使える人^{ひと}は階段^{かいだん}やエスカレーター^{つか}を使いましょう。



〈バリアフリースイレ〉

^{くるま}車いすを使っている人^{ひと}が利用するとき^{りよう}に^{くるま}車いすの向き^{むき}を変えられるように^{ひろく}広くつくられているトイレです。

そのほか、大人^{おとな}のおむつ^が替えにも^{つか}使える大きな^{おお}ベッドや、人工^{じんこう}肛門^{こうもん}、人工^{じんこう}膀胱^{ぼうこう}の人^{ひと}が排泄物^{はいせつぶつ}を流すための^{なが}設備^{せつび}や、ベビーベッドやベビーチェアがあったりします。

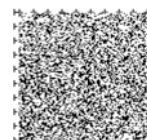


〈^{しょう}障がい者用^{しゃようちゅうしゃくかく}駐車区画、^{おも}思いやり^{ちゅうしゃくかく}駐車区画〉



^{しょう}障がい者用^{しゃようちゅうしゃくかく}駐車区画は、^{くるま}車いすを使っている人^{ひと}など、^{くるま}車の乗り降り^のに^{ひろく}広いスペースが^{ひつよう}必要な人^{ひと}のためのスペースです。

^{おも}思いやり^{ちゅうしゃくかく}駐車区画は、^{つえ}杖を使っている人^{ひと}や妊婦^{にんぶ}・子育て中の^{こそだ}親^{ちゅう}などのためのスペースです。



4 もっとバリアフリーを進めるために

見つけてみよう！いろいろなマーク



しょうがいしゃ
障害者のための
こくさい
国際シンボルマーク

しょうがいのある人が利用できる建物、乗り物であることを表すマークです。



もうじん
盲人のための
こくさい
国際シンボルマーク

世界共通のマークで、視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物・設備・機器などにつけられます。音響式信号機や市役所などの出入り口に設置されている音声案内装置についています。



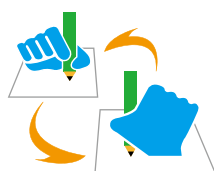
みみ
耳マーク

聴覚に障がいがあることを示し、コミュニケーション方法に配慮を求められる場合などに使用されます。受付カウンターなどに掲示されます。



オストメイトマーク

人工肛門、人工膀胱をつけている人が使うための設備があることを表すマークです。



ひつだん
筆談マーク

聴覚障がい者、知的障がい者などが筆談での対応を求めるときに見せたり、筆談で対応できるところに置いてあります。



しゅわ
手話マーク

聴覚障がい者などが手話でコミュニケーションでの対応を求めるときに見せたり、手話で対応できるところに置いてあります。



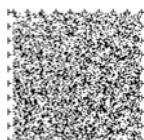
しんたいしょうがいしゃひようしき
身体障害者標識

肢体不自由のある人が、車を運転していることを示すマークで、表示は努力義務です。



ちょうかくしょうがいしゃひようしき
聴覚障害者標識

聴覚障がいのある人が、車を運転していることを示すマークで、表示は義務です。



出典：内閣府ホームページ
(<https://www8.cao.go.jp/shougai/mark/mark.html>)

身体障害者補助犬



身体障害者補助犬（このページでは「補助犬」といいます）には、以下の3種類がいます。

盲導犬

視覚障がいがある人が、安全に、快適に歩くお手伝いをしてくれる犬です。交差点や段差で止まったり、障がい物をよけて歩きます。仕事中はハーネスを付けています。



介助犬

体の不自由な人のために、落としたり、壊したりしたものを拾う、ドアの開閉、指示されたものを持ってくるなどのお手伝いをしてくれる犬です。



聴導犬

聴覚障がいがある人に、生活をしていく上で必要なさまざまな音を覚え、知らせてくれる犬です。

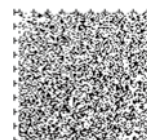


（日本補助犬協会ホームページ参照）

- 補助犬は特別な訓練を受けた犬です。
- 補助犬には、障がいがある人の体の一部として働くという大切な役割があります。
- 市役所や図書館、駅や電車、バスをはじめ、レストランやスーパー、ホテルなどいろいろな場所へ連れて行くことが認められています。



補助犬は仕事中です。かわいいと思っても、話しかけたり、さわったりするなど仕事のじゃまをしないようにしましょう。



5

みんなが暮らしやすい まちをつくろう

わたし たちが 住んで いる まち（社会）の中 には、こども から 大人、障がい がある 人も ない 人も、いろいろな 人が 暮ら しています。

町田市 では、まち（社会）の中 にある「バリア」を なくす 取り組み を 行い、みんな が 暮らし やすい まちづくり を 進め て きました。しかし、障がい がない 人 には バリア を 感じ ない ことも、障がい がある 人 には バリア と なって 困る ことが あります。

障がい がある 人 が 更に「自分の したい こと」が できる まち（社会）に する ため、「町田市 障がい 者 差別 を なくし 誰もが ともに 生きる 社会 づくり 条例」を つく り ました。

この 条例* では、「したい こと がある けれど、バリア が あって 困っ て いる ので 解決 して ほしい」と 相談 が あつたら、その 解決 方 法 を おたが い で 話し 合 っ て「合理的 配慮」を しまし ょ う、という ルール を 決 め て います。

みんな で 力 を 合 わ せ て、誰 も が「自分の したい こと」が できる 暮らし やすい まち（社会）を いっしょ に つく っ て いき まし ょ う。

* 条例 とは 市の ルール や 決 ま り の こと を い います。

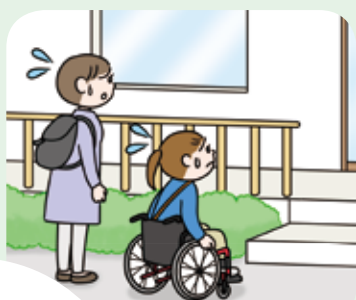


イラスト/ikeko

みなさんといっしょに
取り組んでいく
町田市障がい者
差別解消犬「ノンバリー」

コラム

合理的配慮ってなに？〈車いすを使っているAさんの場合〉

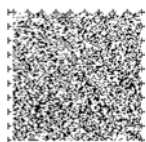


車いすを使っているAさんは階段しかなくて、中に入
れませんでした。

店員さんに相談すると、取り外しができるスロープが
お店にあると教えてくれました。

そこで、Aさんはそのスロープを使いたいと伝え、店
員さんはスロープを用意しました。

このように話し合い、おたがいが納得のいく方法を見
つけ、その方法で行うことを「合理的配慮」といいます。



6-1 用語の説明

(1) 心のバリアフリー

町田市福祉のまちづくり総合推進条例では、「心のバリアフリー」について、「心の中にある先入観、偏見等の障壁を取り除き、すべての人の存在をお互いに理解し、支え合う考え方をいう。」と定義しています。

すべての人が基本的人権を尊重され、自らの意思で行動し、あらゆる分野の活動に参加できるように、地域社会における連携を深め、相互に協力する必要があります。

(2) 障害の社会モデル

障がい者が日常生活又は社会生活において受ける制限は、心身の機能の障がいのみならず、社会における様々な障壁（バリア）と向き合うことによって発生するという考え方です。そのため、障壁を取り除くのは社会の責務であるとし、社会全体の問題として捉えます。

(3) 合理的配慮

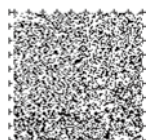
障がい者から、社会的障壁を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、その実施に伴う負担が重すぎない範囲で対応することです。お互いに建設的に話し合い、納得のいく方法を見つけることが重要です。

6-2 「町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例」について

町田市では、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、誰もが身近な地域で支え合い、自分らしく生きることができる共生社会の実現を目指すため、2024年10月に「町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例」を施行しました。

本条例の主な特長は次の5つです。

- 1 不当な差別的取扱いの禁止
- 2 合理的な配慮
- 3 障がい、障がい者及び「障害の社会モデル」に対する理解促進
- 4 建設的対話
- 5 差別に関する相談体制



ハンドブックの目的（ワークの目的）

- 第1章では、普段は生き生きと暮らしている障がい者等が、まち（社会）の中にバリアがあることで、不平等な扱いを受けていることを知り、本来すべての人は平等であり、尊厳があることをワークを通して学びます。
- 第2章では、まち（社会）の中にある「バリア」を解消するために自分たちができることを考え、「障がいは本人ではなくまわりの環境の中にある＝障害の社会モデル」について知ります。
- 第3章では、肢体不自由者や視覚障がい者、聴覚障がい者など、それぞれのニーズや特性を知り、偏見や差別をなくしていくために、自分たちができることについて考えます。
- 第4章では、エレベーターやトイレの適正利用に努めることや、まち（社会）の中にある障がい者等のためのマーク、身体障害者補助犬の紹介を通して、よりバリアフリーを進めていくための行動について考えます。
- 第5章では、「町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例」と、「合理的配慮」について説明しています。
- 第6章では、子どもたちの学習を深めるため、先生や保護者向けに「心のバリアフリー」や、「障害の社会モデル」などの用語解説を行っています。

謝辞

発行にあたって

私にもできる 心のバリアフリー みんなが暮らしやすいまちをつくろう
(心のバリアフリーハンドブック)

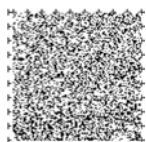
編集・発行 町田市 町田市福祉のまちづくり推進協議会

連絡先 町田市地域福祉部福祉総務課
〒194-8520 町田市森野 2-2-22
電話：042-724-2133 FAX：050-3101-0928

編集協力／株式会社アークポイント
デザイン／有限会社レゾナ **イラスト**／杉野悦子（白玉社）
刊行物番号

この冊子は、〇〇部作成し、1部あたりの単価は〇〇円です（職員人件費を含みます）。

スマートフォンアプリ
や専用の読み上げ装置
で読み取ると、情報を
確認できます。



音声コード Uni-Voice

ねん 年	くみ 組	なまえ 名前